



2021年2月12日

各位

会社名 株式会社エンバイオ・ホールディングス
代表者名 代表取締役社長 西村実
(コード番号：6092)
問合せ先 経理部長 長谷川忠玄
(TEL. 03-5297-7155)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、直近の業績動向を踏まえ、2020年5月15日に公表いたしました2021年3月期（2020年4月1日～2021年3月31日）の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2021年3月期の連結業績予想値の修正（2020年4月1日～2021年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A） （2020年5月15日公表）	百万円 7,530	百万円 290	百万円 183	百万円 112	円 銭 17.16
今回修正予想（B）	6,804	467	353	217	33.14
増減額（B-A）	△726	176	170	105	
増減率（%）	△9.6	60.8	92.9	93.1	
（参考）前期連結実績 （2020年3月期）	7,408	674	521	555	84.49

2. 修正の理由

2021年3月期第3四半期累計期間における当社グループの事業環境につきましては、土壤汚染対策事業において、新型コロナウイルス感染症の影響による着工遅延だけでなく、不動産売買が活発化し、用地仕入の競争が厳しくなっていることによる値下げ圧力、および汚染土壤の掘削除去など技術的に障壁の低い工事に他建築土木関連業者が参入したことで、価格競争が激化したことなどから受注量、受注単価ともに当初計画で見込んでいた想定に届かず、売上高は前回予想を下回る見通しとなりました。また、中国においても、経済活動は持ち直しつつあるものの、新型コロナウイルス感染症再拡大への警戒は解けず、発注者側の計画見直しや行政手続きの遅延等により、見込んでいた浄化案件の受注獲得に至らなかったことも減収の要因となっております。これらの影響は当面続くものと考えられます。

ブラウンフィールド活用事業においては、当初計画で新型コロナウイルス感染症の影響により市況が大きく悪化することを想定しておりましたが、住宅用地及びホテル・商業以外の事業用地は、新型コロナウイルス感染症拡大前と変わらず取引が活発であり、想定より高い価格で売却することにより増益となりました。結果として、ブラウンフィールド活用事業の増益が、土壤汚染対策事業の売上の落ち込みによる減益をカバーする形で営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益は前回発表予想を上回る見通しとなりました。

（注）上記に記載しました予測数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予測数値と異なる可能性があります。

以上